



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月6日

上場会社名 ワタベウエディング株式会社 上場取引所 東・大
 コード番号 4696 URL <http://www.watabe-wedding.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 渡部 秀敏 (TEL) 075-352-4111
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 吉澤 康 配当支払開始予定日 -
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月9日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	13,010	△4.0	522	△16.0	390	△41.6	47	△84.6
22年3月期第1四半期	13,551	49.9	622	△12.3	668	△13.6	306	△21.2

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	4	77	-	-
22年3月期第1四半期	30	96	-	-

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円		円	銭
23年3月期第1四半期	25,782	14,773	57.3	1,490	15		
22年3月期	25,864	14,976	57.9	1,510	94		

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 14,766百万円 22年3月期 14,972百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計					
	円	銭	円	銭	円	銭				
22年3月期	-		15	00	-		15	00	30	00
23年3月期	-									
23年3月期(予想)			15	00	-		15	00	30	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、第2四半期（累計）は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期（累計）	24,300	△2.3	100	△53.3	140	△45.0	△100	-	△10	09
通期	53,100	2.0	2,000	12.8	2,100	11.1	800	3.5	80	73

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期1Q	9,909,400株	22年3月期	9,909,400株
23年3月期1Q	253株	22年3月期	177株
23年3月期1Q	9,909,198株	22年3月期1Q	9,909,223株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現時点で入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、好調な新興国経済など外需主導で、景気回復の兆しが見られるものの、欧州の財政問題などを背景に、世界経済の先行き不透明感が強まる状況で推移いたしました。

このような状況下において、当社グループは、個性化するお客様のニーズに応えるべく、トータル・ブライダル・ソリューションの実現とグローバルな視点であらゆるサービスを融合させることで、「お客様満足度の向上」と「感動の最大化」を図り、ブライダル、アニバーサリーにおいて、すてきな生活文化を創造するべく積極的に事業展開を行ってまいりました。

「リゾート挙式」におきましては、個性化ウェディングの代表格である「リゾート婚」の需要を喚起することで、海外リゾート挙式は、挙式取扱組数や婚礼単価共に増加し、対前年同四半期比で上回る結果となりました。

また、アジアマーケット戦略の一環として、平成22年4月より台湾台北市の地元カップルを対象にしたローカル婚礼施設「麗庭荘園 (Grace Hill)」を、新規施設として運営を開始しました。

「ホテル・国内挙式」におきましては、目黒雅叙園において、個人の需要を喚起することにより宴会部門が好調に推移しましたが、メルパークにおいて、婚礼の受注が低下したことにより、挙式取扱組数が対前年同四半期比で下回る結果となりました。

以上の結果、当社グループの業績は、上記施策を行ったものの、主に「ホテル・国内挙式」における挙式取扱組数の減少により、売上高13,010百万円（前年同四半期比4.0%減）、営業利益522百万円（同16.0%減）となり、為替差損等の影響により経常利益390百万円（同41.6%減）、資産除去債務会計基準の適用により四半期純利益47百万円（同84.6%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。なお、以下の数値は、セグメント内及びセグメント間の取引消去前となっております。

① リゾート挙式

自社施設の利用率が堅調に推移し、挙式取扱組数が増加した結果、売上高は7,510百万円（前年同四半期比0.7%増）、営業利益は381百万円（同2.8%減）となりました。

② ホテル・国内挙式

メルパークの挙式取扱組数が計画水準を確保できず、売上高は7,456百万円（同7.0%減）となり、固定費の抑制に取り組んだものの、営業利益は152百万円（同28.0%減）となりました。

(注) なお、当第1四半期連結累計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」を適用しております。前年同四半期比較に当たっては、前第1四半期を新セグメントの区分に組み替えて表示しております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

① 資産、負債及び純資産の状況について

当社グループの当第1四半期連結会計年度末の流動資産は、前連結会計年度末に比べ671百万円増加し、9,072百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加したことによるものであります。固定資産は、前連結会計年度末に比べ753百万円減少し、16,709百万円となりました。これは主に海外の挙式運営施設を売却したことにより有形固定資産が減少したことによるものであります。この結果、資産合計は前連結会計年度末に比べ81百万円減少し、25,782百万円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末に比べ195百万円減少し、8,606百万円となりました。これは主に買掛金の減少によるものであります。固定負債は前連結会計年度末に比べ316百万円増加し、2,402百万円となりました。これは主に資産除去債務の計上によるものであります。この結果、負債合計は前連結会計年度末に比べ121百万円増加し、11,009百万円となりました。

純資産残高は前連結会計年度末に比べ203百万円減少し、14,773百万円となりました。これは四半期純利益47百万円や配当金148百万円の支払による利益剰余金の減少101百万円、為替相場の変動による為替換算調整勘定の減少58百万円によるものであります。

② キャッシュフローの状況

当第1四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが345百万円の支出、投資活動によるキャッシュ・フローが266百万円の収入、財務活動によるキャッシュ・フローが350百万円の収入となり、この結果、当第1四半期連結会計期間末の現金及び現金同等物（以下「資金」という）期末残高は期首より230百万円増加し、4,468百万円となりました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は345百万円（前年同四半期比40.3%減）となりました。これは、税金等調整前四半期純利益85百万円、減価償却費467百万円、資産除去債務会計基準適用の影響額392百万円があったものの、賞与引当金の減少325百万円、為替差損益143百万円や固定資産除売却損益118百万円、仕入債務の減少221百万円

や法人税等の支払378百万円などの資金の減少があったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果得られた資金は266百万円(前年同四半期は935百万円の支出)となりました。これは主に有形固定資産の売却による収入997百万円があったものの、定期預金の預入による支出375百万円、有形固定資産の取得による支出341百万円などの資金の減少があったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は350百万円(前年同四半期比71.6%減)となりました。これは短期借入金の増加600百万円、配当金の支払148百万円等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

現時点におきましては、平成22年5月7日発表の業績予想を変更しておりません。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

特有の会計処理

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、「法人税等」に含めて表示しております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

・会計基準等の改正に伴う変更

資産除去債務に関する会計基準の適用

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

これにより、営業利益及び経常利益はそれぞれ12百万円、税金等調整前四半期純利益は405百万円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は631百万円であります。

・表示方法の変更

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第22号 平成20年12月26日)に基づく「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成21年3月24日 内閣府令第5号)の適用により、当第1四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目で表示しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,846	4,241
売掛金	1,738	1,748
商品及び製品	225	200
仕掛品	26	27
原材料及び貯蔵品	596	615
その他	1,667	1,595
貸倒引当金	△28	△27
流動資産合計	9,072	8,401
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	5,484	6,104
その他(純額)	5,533	5,458
有形固定資産合計	11,017	11,562
無形固定資産	1,377	1,436
投資その他の資産		
差入保証金	3,600	3,692
その他	747	803
貸倒引当金	△32	△32
投資その他の資産合計	4,314	4,463
固定資産合計	16,709	17,462
資産合計	25,782	25,864
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,643	1,874
短期借入金	1,679	909
未払法人税等	94	517
前受金	2,283	2,317
賞与引当金	345	670
その他	2,560	2,512
流動負債合計	8,606	8,802
固定負債		
長期借入金	1,275	1,533
退職給付引当金	166	159
資産除去債務	611	—
その他	348	392
固定負債合計	2,402	2,085
負債合計	11,009	10,887

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,176	4,176
資本剰余金	4,038	4,038
利益剰余金	7,777	7,878
自己株式	△0	△0
株主資本合計	15,991	16,092
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	10	17
繰延ヘッジ損益	△8	31
土地再評価差額金	△906	△906
為替換算調整勘定	△321	△263
評価・換算差額等合計	△1,225	△1,120
少数株主持分	6	4
純資産合計	14,773	14,976
負債純資産合計	25,782	25,864

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	13,551	13,010
売上原価	4,642	4,433
売上総利益	8,909	8,577
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	2,712	2,703
賞与引当金繰入額	218	196
退職給付費用	38	39
賃借料	—	1,631
その他	5,316	3,483
販売費及び一般管理費合計	8,286	8,054
営業利益	622	522
営業外収益		
受取賃貸料	16	16
為替差益	16	—
その他	32	47
営業外収益合計	64	63
営業外費用		
支払利息	6	6
為替差損	—	152
賃貸費用	6	4
その他	6	32
営業外費用合計	18	196
経常利益	668	390
特別利益		
固定資産売却益	0	164
特別利益合計	0	164
特別損失		
施設店舗整理損	88	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	392
その他	6	76
特別損失合計	94	468
税金等調整前四半期純利益	574	85
法人税等	266	35
少数株主損益調整前四半期純利益	—	50
少数株主利益	0	3
四半期純利益	306	47

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	574	85
減価償却費	424	467
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△483	△325
受取利息及び受取配当金	△2	△4
支払利息	6	6
為替差損益 (△は益)	△99	△143
有形固定資産除売却損益 (△は益)	—	△118
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	392
売上債権の増減額 (△は増加)	151	9
たな卸資産の増減額 (△は増加)	75	△1
仕入債務の増減額 (△は減少)	△416	△221
前受金の増減額 (△は減少)	△227	△27
その他	29	△79
小計	31	40
利息及び配当金の受取額	2	3
利息の支払額	△6	△10
法人税等の支払額	△605	△378
営業活動によるキャッシュ・フロー	△577	△345
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	—	△375
有形固定資産の取得による支出	△926	△341
有形固定資産の売却による収入	0	997
無形固定資産の取得による支出	△54	△96
差入保証金の差入による支出	△63	△31
差入保証金の回収による収入	47	111
その他	61	1
投資活動によるキャッシュ・フロー	△935	266
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	680	600
長期借入れによる収入	800	—
長期借入金の返済による支出	△93	△88
配当金の支払額	△148	△148
その他	△7	△12
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,231	350
現金及び現金同等物に係る換算差額	48	△41
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△232	230
現金及び現金同等物の期首残高	4,940	4,237
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,707	4,468

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

1. 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、国内・海外のリゾート地における挙式サービスを行う「リゾート挙式」と国内のホテルにおける挙式・宴会・レストラン・宿泊サービスを行う「ホテル・国内挙式」の2つを主たる事業として、この報告セグメントごとに包括的な経営戦略を立案し、事業活動を展開しております。

「リゾート挙式」は、主として当社の国内店舗や旅行会社を集客窓口として、米国ハワイ州や沖縄などの国内外のリゾート地における挙式サービス並びにウェディングドレス・タキシード・写真アルバム等の挙式に係る付帯サービスの製造販売も行っております。「ホテル・国内挙式」は、目黒雅叙園やメルパルクに代表される国内のホテルにおける挙式・宴会・レストラン・宿泊サービスを提供しております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・国内 挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	5,597	7,412	13,010	—	13,010
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,912	43	1,956	(1,956)	—
計	7,510	7,456	14,966	(1,956)	13,010
セグメント利益	381	152	533	(10)	522

(注) 1. セグメント利益の調整額△10百万円には、セグメント間取引消去5百万円、棚卸資産等の調整額△15百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

なお、前第1四半期連結累計期間について、当第1四半期連結累計期間の表示に組み替えると以下のとおりであります。

(参考) 前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	リゾート挙式	ホテル・国内 挙式			
売上高					
外部顧客への売上高	5,579	7,971	13,551	—	13,551
セグメント間の内部売上高又は振替高	1,879	46	1,926	(1,926)	—
計	7,459	8,018	15,477	(1,926)	13,551
セグメント利益	392	211	603	18	622

(注) 1. セグメント利益の調整額18百万円には、セグメント間取引消去10百万円、棚卸資産等の調整額8百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。